

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)

北九州・下関まなびとぴあ

高齢者 QOL ビジネス創出プロジェクト
(CCRC 構築モデル事業)

最終活動報告書

目次

はじめに	1
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」とは	2
「北九州・下関まなびとぴあ」とは	2
「高齢者 QOL ビジネス創出プロジェクト」とは	3
実施事業の概要について	4
1. 委員会の運用	4
2. 3 大学連携講義の実施	9
① 年度計画	10
② 3 大学連携講義の実施及び単位相互認定に関する包括協定	10
③ シラバスの策定	11
④ 高齢者支援学 I における PBL の課題作成	14
⑤ プレテスト、ポストテストの作成	16
⑥ 高齢者支援学 I の実施	18
⑦ 高齢者支援学 I 受講後アンケート調査	27
⑧ 高齢者支援学 II の実施	34
3. 3 大学連携公開講座の実施	37
4. 高齢者が安全安心に暮らせるまちづくり	52
おわりに	55

はじめに

公立大学法人 九州歯科大学
理事長・学長 西原 達次



これまで、北九州市内の大学が企業や地方公共団体と協働して、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」を推進してきました。北九州市立大学が取りまとめ大学として、北九州及び下関地域の13大学、高専、自治体、経済団体の協働体制のもと、この地域で活躍する人材の育成に取り組んできました。このなかで、九州歯科大学（歯科医療・口腔保健）は、西南女学院大学（看護・栄養・福祉）及び西日本工業大学（住まい）とともに「高齢者 QOL ビジネス創出プロジェクト」を取りまとめ、学生に実践的教育を提供し、地域社会で働くことの意義を伝えるとともに、働く場の提供ということも視野に入れた活動を展開してきました。

ご承知の通り、北九州市は政令都市のなかで、高齢化率のきわめて高いということから、地方創生を語るときに高齢社会を現実のものとして捉えて事業展開することが求められます。そこで、北九州市で継続的なケアを受けつつ充実した健康長寿生活を送るにはどのようにしたら良いか、さらに、そのような生活を送るために適した住まいの環境はという視点で、学生が自ら考え、意見を述べ、作り上げていけるような科目設定を考えました。このCOC+事業は、平成27年度から令和1年度までの5年間で学生の地元定着率を10%向上させるという成果指標を掲げて展開されてきましたので、我々が取り組んできたプロジェクトでも、高齢者と触れ合いながら地域に根差した活動を展開してきました。この活動の軸になる考え方は、「生涯活躍のまち」構想を北九州地域においてどのように展開するかということを学生が実体験することが大事であるということで、健康作り、介護予防、健康管理の担い手である「看護・介護・健康管理」関連施設に、学生が出向き、肌で感じてもらいました。具体的には、3大学間での単位認定科目「高齢者支援学」を開講し、3大学から講師が出向き、オムニバス教育などを展開してきました。

5年間の教育を通じて、北九州地域におけるCCRC構築モデル事業の創生を目指してきましたが、その過程で、従来の病院・診療所のみならず、介護施設においても、バリアフリーあるいはユニバーサルデザインという視点で見ると、改善の余地があるということを学生が気づき指摘してくれました。その後、実証試験をデザインシンキングという新しい概念で展開し、具体的な方略について検討を加えることができたのは想定外の成果でした。今後の3大学の連携に繋がるものとして、各大学協働で、さらなる発展を目指します。

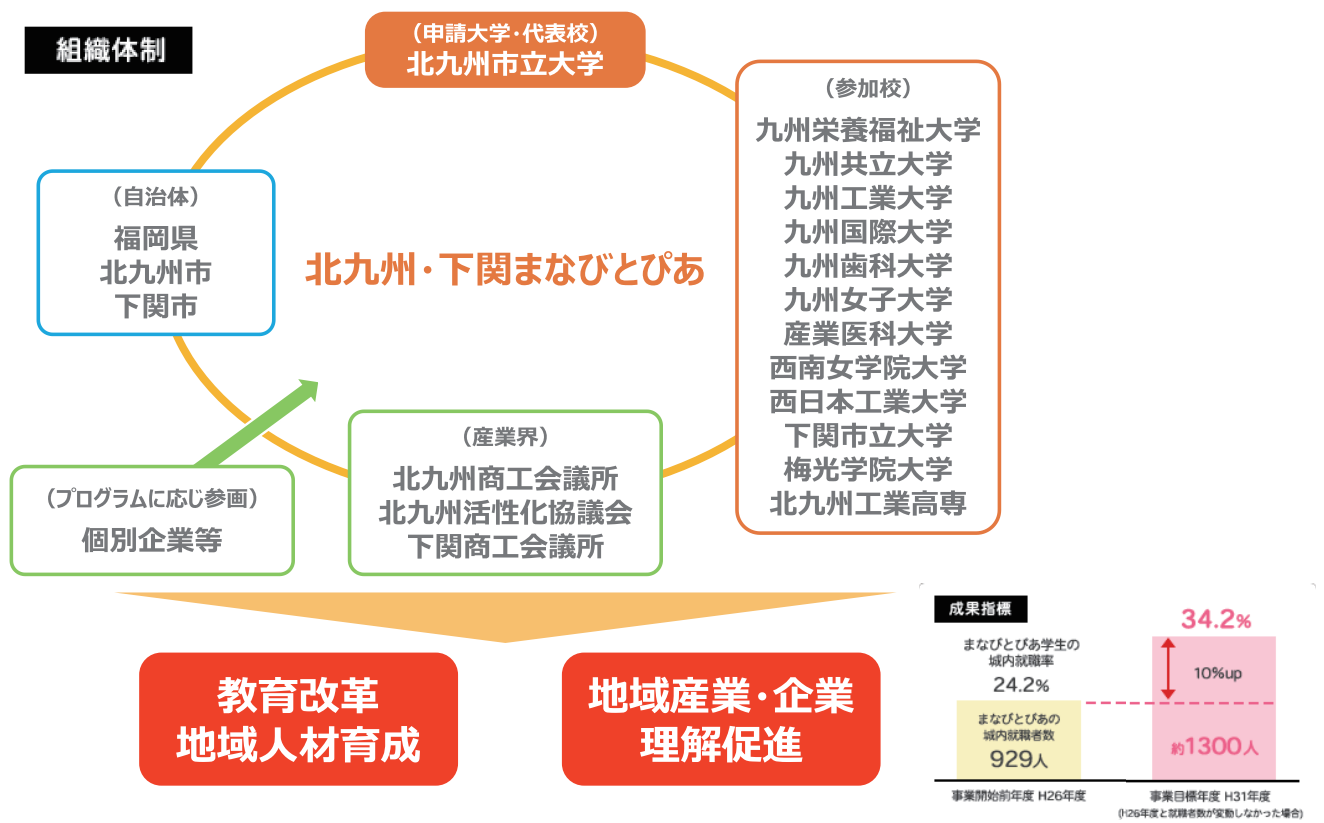
「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC⁺）」とは

大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」を実施します。

「北九州・下関まなびとぴあ」とは

北九州・下関地域の 13 大学・高専、3 自治体、3 経済団体が協働して、地域で活躍する人材の育成に取り組みます。

平成 27 年度から令和元年度までの 5 年間で、まなびとぴあ学生の域内就職率を 10%向上させることなどを成果指標として掲げています。

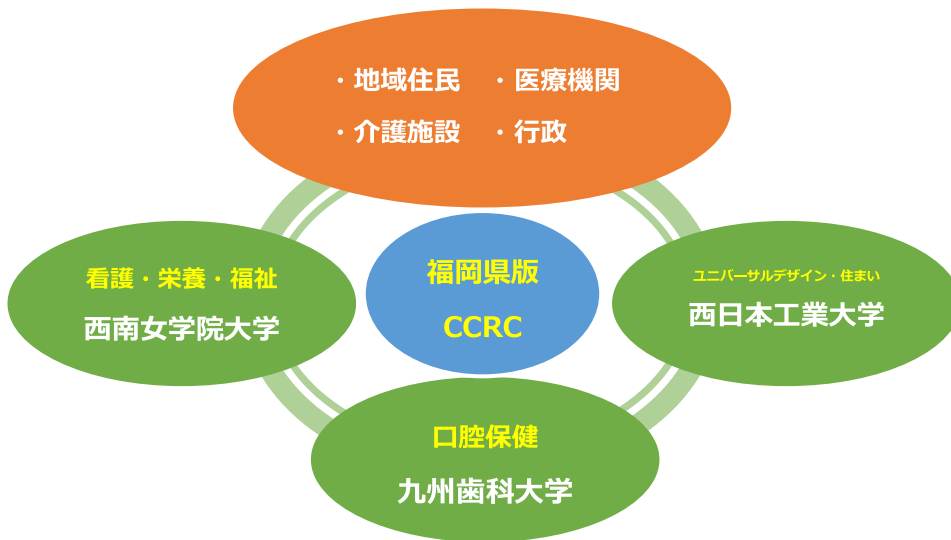


< 期待される効果 >

- 就職活動時に自ら情報収集、学習(修)や体験した地域企業が選択肢に挙がる
- 学卒時に限らず、将来を含め地域に愛着を持ち、生活、就職したいと思う
- 地域企業で必要とされる人材と成り得る就業力を修得する

「高齢者 QOL ビジネス創出プロジェクト」とは

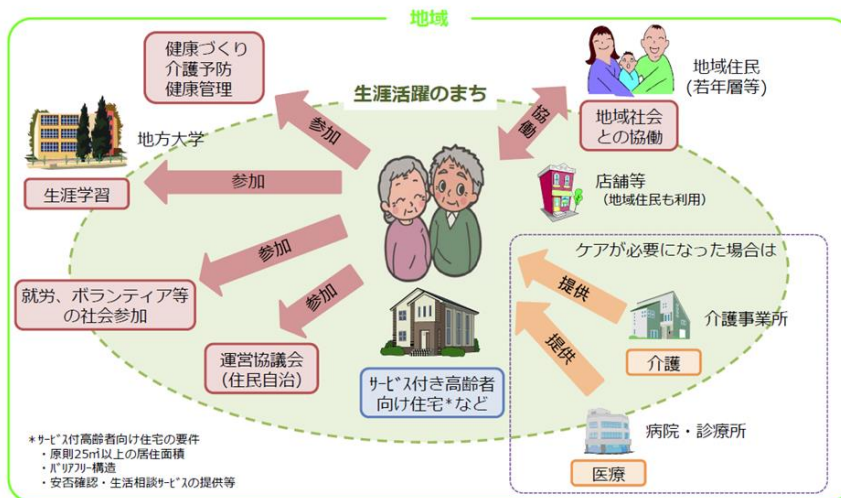
北九州・下関まなびとぴあで実施するプロジェクトのうち、高齢者の QOL 向上を志向した新たな産業創出をめざすプロジェクトで、専門の異なる 3 つの大学（九州歯科大学、西南女学院大学、西日本工業大学）が連携し、実践的教育を展開します。継続的なケアを受けつつ充実した生活を送ることのできる**大学連携型 CCRC**（高齢者の地域共同体）の構築を目指します。



CCRC（Continuing Care Retirement Community）は日本の施策にも反映されており、「生涯活躍のまち構想」として、日本各地で展開されています。北九州市でも移住の促進事業などアクティブシニアにとって魅力あるまちづくりを進めています。

「生涯活躍のまち」構想における高齢者の生活のイメージ

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

実施事業の概要について

1. 委員会の運用

2つの委員会を設置し、本事業に係る検討を行っています。

(1) CCRC 推進協議会

① 設置目的

「高齢者 QOL 創出プロジェクト」により福岡県版 CCRC を構築・展開するため、ステークホルダー（福岡県、北九州市、北九州商工会議所）および本プロジェクト参加校（九州歯科大学、西南女学院大学、西日本工業大学）により協議し、事業の効率的な推進を図ります。

② 開催状況

1) 平成 27 年度

開催日時：平成 28 年 3 月 10 日(木) 10 時～12 時 00 分

開催場所：九州歯科大学本館 2 階大会議室

議題（1）協議会委員名簿

（2）本事業の位置づけについて

（3）平成 27 年度実施事業について

（4）平成 27 年度補助対象経費について

（5）意見交換

2) 平成 28 年度

開催日時：平成 28 年 10 月 12 日(水) 13 時～14 時 30 分

開催場所：九州歯科大学本館 2 階大会議室

議題（1）平成 28 年度実施事業について

（2）平成 29 年度補助対象経費について

（3）北九州市立浅生スポーツセンター（D 街区）における指定管理者との共同の取り組みについて

（4）次年度に向けての意見交換

（5）その他

3) 平成 29 年度

開催日時：平成 29 年 11 月 13 日(水) 13 時～14 時 30 分

開催場所：九州歯科大学本館 2 階大会議室

- 議題 (1) 平成 29 年度実施事業について
(2) 平成 30 年度補助対象経費について
(3) 次年度に向けての意見交換
(4) その他

4) 平成 30 年度

開催日時：平成 30 年 11 月 2 日(金) 10 時～12 時 00 分

開催場所：九州歯科大学本館 2 階大会議室

- 議題 (1) 平成 30 年度実施事業について
(2) 平成 29 年度中間評価について
(3) 平成 31 年度補助対象経費について
(4) 補助期間終了後の事業に関する意見交換
(5) その他

5) 令和元年度

開催日時：令和 2 年 1 月 14 日(月) 13 時～14 時 30 分

開催場所：九州歯科大学本館 2 階大会議室

- 議題 (1) 令和元年度実施事業について
(2) 高齢者 QOL ビジネス創出プロジェクト 最終活動報告書について
(3) 今後の高齢者 QOL ビジネス創出プロジェクトについて
(4) その他

③ 委員名簿

組織	所属
福岡県	人づくり・県民生活部 私学振興・青少年育成局 政策課 課長
北九州市	企画調整局 地方創生推進室 都市ブランド戦略担当課長
北九州商工会議所	企画広報課 課長
九州歯科大学	理事長・学長 副理事長 副学長・歯学部長 口腔保健学科長
西南女学院大学	保健福祉学部 学部長 事務局 事務部長
西日本工業大学	副学長・デザイン学部長 事務次長

【オブザーバー】

北九州市立大学	キャリアセンター COC+コーディネーター
---------	-----------------------

(2) 連携講義検討委員会

① 設置目的

福岡県版 CCRC を推進するために必要な、アクティブシニアがアクティブに生活を送るための支援ができる人材を育成するため、3大学（九州歯科大学、西南女学院大学、西日本工業大学）がそれぞれの専門性を活かしながら、連携して実施する講義および市民公開講座について検討しています。

② 名簿

組織	所属	氏名
九州歯科大学	口腔保健学科長・教授	秋房住郎（平成27年度～平成29年度）
	口腔保健学科長・教授	引地尚子（平成27年度～）
	口腔保健学科・教授	藤井航（平成30年度～）
	感染分子生物学分野・助教 兼 COC+プロジェクト運営センター	吉岡香絵（平成28年度～）
	感染分子生物学分野・講師 兼 COC+プロジェクト運営センター	沖永敏則（平成29年度）
	COC+プロジェクト運営センター	井上真紀（令和元年度～）
西南女学院大学	保健福祉学部 福祉学科 准教授	■■■■（平成27年度～）
	保健福祉学部 福祉学科 准教授	■■■■（平成29年度～）
	保健福祉学部 看護学科 准教授	■■■■（平成28年度）
	保健福祉学部 看護学科 講師	■■■■（平成28年度～）
	保健福祉学部 栄養学科 准教授	■■■■（平成28年度～）
	保健福祉学部 栄養学科 講師	■■■■（平成28年度～）
	保健福祉学部 栄養学科 准教授	■■■■（平成30年度～）
西日本工業大学	客員教授	■■■■（平成27年度～）
	デザイン学部 建築学科 准教授	■■■■（平成30年度）
	デザイン学部 事務室 室長	■■■■（平成27年度～）
	デザイン学部 事務室	■■■■（平成30年度～）

③ 開催状況

- ・第1回 平成27年12月14日
- ・第2回 平成27年1月29日
- ・第3回 平成28年2月23日
- ・第4回 平成28年3月14日
- ・第5回 平成28年4月14日
- ・第6回 平成28年5月19日
- ・第7回 平成28年6月16日
- ・第8回 平成28年8月18日
- ・第9回 平成28年9月15日
- ・第10回 平成28年10月6日
- ・第11回 平成28年11月17日
- ・第12回 平成29年1月19日
- ・第13回 平成29年2月16日
- ・第14回 平成29年4月13日
- ・第15回 平成29年11月13日
- ・第16回 平成30年4月19日
- ・第17回 平成30年5月15日
- ・第18回 平成30年7月17日
- ・第19回 平成30年9月11日
- ・第20回 平成30年10月25日
- ・第21回 平成31年3月26日
- ・第22回 令和元年8月1日
- ・第23回 令和元年11月20日

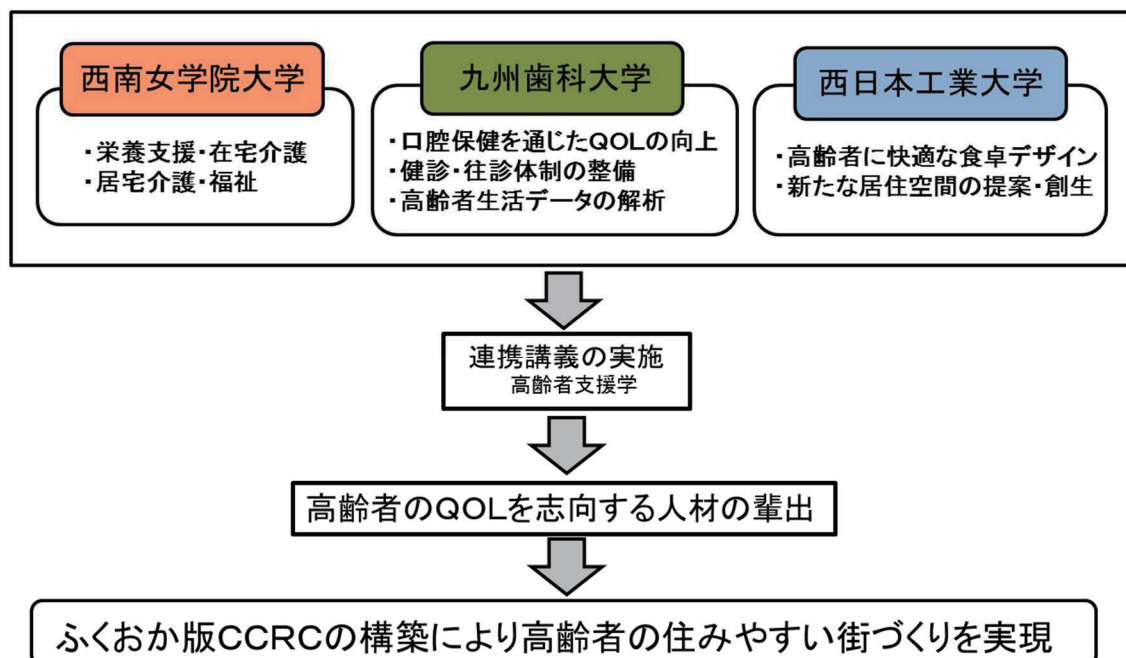
2. 3大学連携講義の実施

九州歯科大学歯学部（口腔保健学科）、西南女学院大学の保健福祉学部（福祉学科、看護学科、栄養学科）、西日本工業大学のデザイン学部（建築学科、情報デザイン科）、の3大学6学科で医療、福祉、栄養、工学の専門性と特徴を活かしつつ、それぞれの職種が連携して、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法等に関する知識・技術を学修することを目的として、アクティブシニアの支援方法を学ぶ「高齢者支援学Ⅰ」（対象学年：2年生）と、要介護者の支援方法を学ぶ「高齢者支援学Ⅱ」（対象学年：4年生）を実施しています。高齢者支援学Ⅰは平成29年度から、高齢者支援学Ⅱは令和元年度から実施しています。

科目は1単位で、高齢者支援学Ⅰは九州歯科大学は必修科目、西南女学院大学、西日本工業大学は選択科目、高齢者支援学Ⅱは3大学ともに選択科目です。

高齢者支援学

九州歯科大学（口腔保健）が中心となり、西南女学院大学（看護・福祉・栄養）、西日本工業大学（ユニバーサルデザイン・住まい）との連携のもと、高齢者の健全な「食」と「住」環境づくりのため、摂食嚥下、栄養支援及び安全で快適な食卓デザインに係る実践的教育を行う。

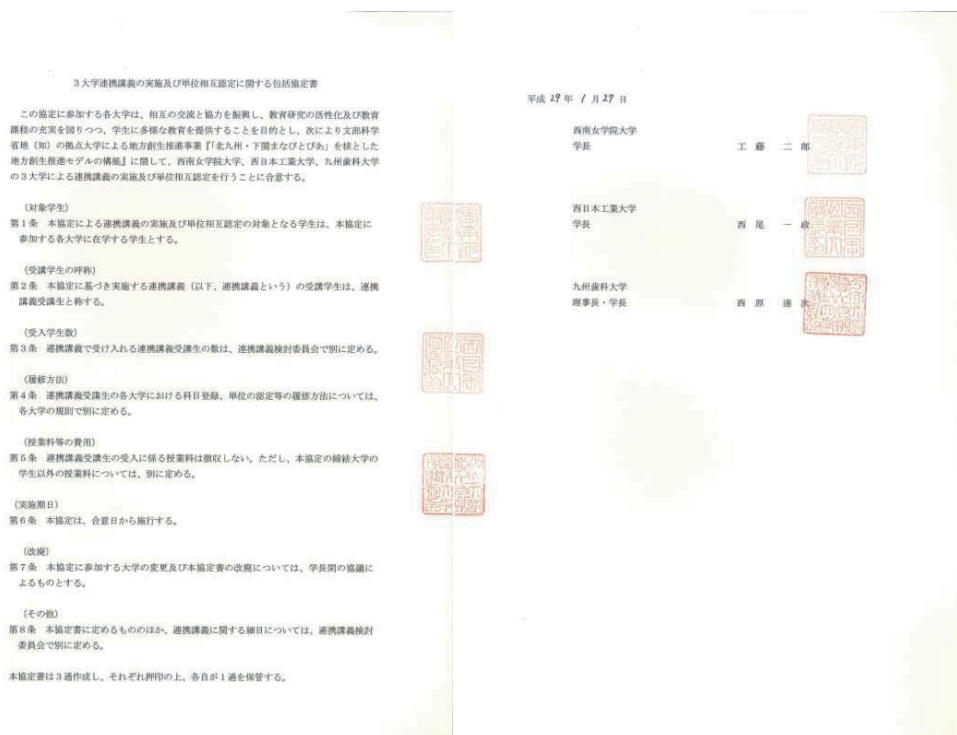


① 年度計画

年度	実施内容
H27年度	連携講義の設置に関する協議開講時期の設定
H28年度	教育ツールの開発（シナリオ、PBL）
H29年度	連携講義開始 対象者：H28年度入学者 2年生前期（高齢者支援学Ⅰ）
H30年度	対象者：H29年度入学者 2年生前期（高齢者支援学Ⅰ）
R1年度	対象者：H30年度入学者 2年生前期（高齢者支援学Ⅰ） H28年度入学者 4年生前期（高齢者支援学Ⅱ）

② 3大学連携講義の実施及び単位相互認定に関する包括協定

九州歯科大学、西南女学院大学、西日本工業大学の3大学は、相互の交流と協力を振興し、教育研究の活性化及び教育課程の充実を図りつつ、学生に多様な教育を提供することを目的として、文部科学省地（知）の拠点大学による地方創生推進事業『「北九州・下関まなびとぴあ」を核とした地方創生推進モデルの構築』において、九州歯科大学、西南女学院大学、西日本工業大学の3大学による連携講義の実施及び単位相互認定を行うために、平成29年1月27日に包括協定を締結しました。



③ シラバスの策定

それぞれの専門分野の知識を活かし、多職種が連携しつつアクティブシニアを支援する方法を学ぶ「高齢者支援学Ⅰ」及び要介護者を支援する方法を学ぶ「高齢者支援学Ⅱ」の到達目標を平成 27 年度から 3 大学連携講義検討委員会において複数回検討を行い、平成 28 年度にそれらの到達目標を策定しました。高齢者支援学Ⅰは、集中講義並びに PBL(Problem Based Learning)、高齢者支援学Ⅱは集中講義、高齢者施設実習並びにグループワークを通じて学修を行うこととしました。

高齢者支援学 I 到達目標

講義	九州歯科大学口腔保健学科担当分
	①口腔機能の生理学・解剖学的特徴について概要を理解する。 ②歯科疾患の特徴とその予防方法に関する概要を理解する。 ③老化に伴う口腔機能の低下とその予防について理解する。 ④口腔機能の維持向上による摂食支援について理解する。
	西南女学院大学福祉学科担当分
	①介護保険制度の内容と動向について説明できる。 ②地域包括ケアシステムの背景、考え方、具体的な展開方法について説明できる。 ③高齢者等によるボランティア活動の現状と意義について説明できる。 ④高齢者等のボランティア活動に対する支援方法について説明できる。
	西南女学院大学栄養学科担当分
	①高齢者が健康でアクティブな生活を維持増進するために必要なエネルギー及び栄養素（食事摂取基準）について説明できる。 ②高齢者の低栄養・過栄養と疾患との関連について説明できる。 ③高齢者の栄養状態の評価・判定（身体計測）の意義について説明できる。
	西南女学院大学看護学科担当分
	①高齢者が健康でアクティブな生活を維持増進するために、高齢者の生活機能を評価する意義が説明できる。 ②介護予防の視点から、高齢者の維持すべき運動機能・ADL 機能・IADL 機能について説明できる。 ③高齢者の自立した生活機能と認知力の関係について説明できる。
P B L	西日本工業大学デザイン学部担当分
	①ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いを理解する。 ②ユニバーサルデザインの7原則とその考え方を理解する。 ③安全で快適な食卓（キッチン）の考え方を理解する。
	アクティブシニアが活動的な生活を送り続けるために必要な支援とは
	①老化に伴い生じる口腔機能の低下の特徴とその予防方法について学修する。また、高齢になっても安全・安心に食べ、楽しんで食事できるための支援のあり方についても学修する。 ②身体のいろんな部位に老化が生じて、安心・安全な生活が送れるように、ひとにやさしいユニバーサルデザイン配慮の住宅のポイントを理解し、さらにキッチン関連を中心に楽しく生活できるようコミュニケーションに重点を置いた配慮ポイントを学ぶ。

高齢者支援学Ⅱ 到達目標

講義	九州歯科大学担当分
	①要介護者の口腔機能の特徴について概要を理解する。 ②要介護者の経口摂取支援について概要を理解する。 ③高齢者施設での食支援の実際について概要を理解する。
	西南女学院大学担当分
	①介護保険制度下における高齢者施設の種類、特性、利用手続きについて説明できる。 ②支援者としての基本的姿勢や態度について説明・実践できる ③高齢者とのコミュニケーションや関係形成の方法について説明・実践できる。
	西日本工業大学デザイン学部担当分
	①食卓（キッチン）を除く、水まわり3空間の考え方を理解する。 ②安全で快適な住居デザインの考え方を理解する。 ③介護保険制度と北九州市独自住宅改造助成制度について理解する。 ④要介護高齢者を対象とした住宅および高齢者施設の配慮ポイントを理解する。 (障害別住宅の考え方を理解する：福祉用具の考え方も含めて理解する)
実習、 グルー プワ ーク	要支援・要介護状態の高齢者に必要な支援とは
	講義で学修したことを生かし、さまざまな専門分野からの意見を取り入れ、要介護高齢者が高齢者施設で安全に暮らせる支援を提案する。

④ 高齢者支援学 I における PBL (Problem Based Learning) の課題作成

PBL の課題については、3 大学連携講義検討委員会において各専門領域の教員が検討をかさね、テーマ、一般目標、到達目標を以下のように設定し、課題シナリオを作成しました。

1) 課題の中心テーマ

アクティブシニアがアクティブな生活を送り続けるために必要な支援について考える。

2) 一般目標

A さんが現在と変わらずアクティブな生活を送り続けるために必要な支援を各専門分野からアイデアをだし、適切な支援方法を検討する。

3) 到達目標

・口腔保健学領域

老化に伴い生じる口腔機能の低下の特徴とその予防方法について理解することができる。また、高齢になっても安全・安心に食べ、楽しんで食事するための支援のあり方についても考えることができる。

・福祉学領域

高齢者の生活歴や現在の生活状況を理解し、QOL 向上のための支援について考えることができる。

・栄養学領域

加齢に伴う摂食・嚥下機能の低下や高齢者が陥りやすい低栄養の問題について学び、食生活や栄養状態の改善が図れるよう、安全な食支援について考えることができる。

・看護学領域

高齢者の介護予防、特に活動性や認知力の維持に向けた支援方法について、自由な発想で検討し合い、視野を広げることができる。

・住宅・デザイン学領域

身体のいろんな部位に老化が生じてても、安心・安全な生活が送れるように、ひとにやさしいユニバーサルデザイン配慮の住宅のポイントを理解し、さらにキッチン関連を中心に楽しく生活できるようコミュニケーションに重点を置いた配慮ポイントを考えることができる。

4) 課題シナリオ

Aさんは福岡県北九州市に住む75歳の男性です。Aさんは大学卒業後、小学校の教師となり、28歳の時に結婚しました。2人の子どもがいますが、全員独立し、県外で暮らしているため、現在は結婚10年後に建てた築30年の一軒家に妻と二人で暮らしており、家事は可能な限り妻と分担して行っています。

Aさんは60歳の時に定年退職し、しばらくは町内会の役員や地域でのボランティア活動を行っていましたが、65歳の時に心筋梗塞になり、それらの役割を辞めました。

Aさんは、数年前から少し無理をすると微熱がでるようになったため、外出を控えるようになりました。そのため、以前に比べると活動量が減少しており、つまずきやすくなった、早歩きができなくなった、立ち上がる際にふらつく、握力が落ちたといった症状も出てきています。活動量の低下とともに食事摂取量が減少し、BMI判定で「やせ」の状態となっています。食事については、食物を飲み込む際に時々むせる、味が薄いとを感じるなど味覚の鈍化を感じることはありません。

これらに加え、玄関に新聞を取りにいった、何をしに行ったか忘れてしまい、玄関の植木を見ただけで部屋に戻るといった行動をすることが時々あり、「最近忘れっぽくなった」と感じるようになりました。

⑤ プレテスト、ポストテストの作成

高齢者支援学Ⅰ及び高齢者支援学Ⅱにおいて、受講前後の教育的効果の検討を行うことを目的として、受講前にプレテスト、受講後にポストテストを行うこととしました。問題については歯学、看護学、福祉学、栄養学、工学の5つの領域からなり、それぞれ2問ずつ計10問の五肢択一式もしくは五肢複択式としました。得点については、1問1点とし、10点を満点としました。プレテストとポストテストの問題は同一の内容とし、「高齢者支援学Ⅰ」、「高齢者支援学Ⅱ」のそれぞれの到達目標にあわせて教員が自身の専門分野領域の問題を作成し、3大学連携講義検討委員会で検討を行いました。

高齢者支援学Ⅰ プレテスト (プレテスト)		
大学名:	学科名:	氏名:
<p>問1. 高齢者総合的機能評価について正しいものはどれか。1つ選べ。</p> <p>(1) 高齢者の身体機能を総合的に評価するもので、社会的環境は含まれない。</p> <p>(2) 高齢者のQOL向上を目的にしている。</p> <p>(3) 測定・評価には確立した一定の評価手法を用いてはならない。</p> <p>(4) 日本人を対象として評価するには適切でない。</p>		
<p>問2. ADL(日常生活動作)に含まれないものはどれか。1つ選べ。</p> <p>(1) 食事</p> <p>(2) 整容</p> <p>(3) 排泄</p> <p>(4) 掃除</p> <p>(5) 入浴</p>		
<p>問3. 高齢者における低栄養に関する記述について、正しいものはどれか。1つ選べ。</p> <p>(1) たんぱく質・エネルギー栄養障害のことをPEMという。</p> <p>(2) マラサムスは、長期にわたりたんぱく質が欠乏した状態である。</p> <p>(3) 食事摂取量の減少は、脱水症の要因にならない。</p> <p>(4) 血清アルブミン値は、栄養不良により上昇する。</p> <p>(5) BMI 23 kg/m²をやせ(低体重)と判定する。</p>		
<p>問4. 高齢期の栄養と食事に関する記述について、正しいものはどれか。1つ選べ。</p> <p>(1) 栄養バランスの良い食事は、主食と主菜のみを揃える。</p> <p>(2) 水や飲み物にちろみをつけることは、誤嚥予防として大切である。</p> <p>(3) ビタミンAは、不足すると骨粗鬆症の発症リスクが高まる。</p> <p>(4) ビタミンCは、動物性食品に多く含まれ、欠乏すると夜盲症が起こる。</p> <p>(5) 日本人の食事摂取基準(2015年版)において、食塩(食塩相当量g/日)の目標量は、女性で10.0g未満である。</p>		
<p>問5. 介護保険制度に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。1つ選べ。</p> <p>(1) 2000年4月より実施された。</p> <p>(2) 保険への加入は任意である。</p> <p>(3) 財源構成は、公費(税金)30%、保険料70%である。</p> <p>(4) 保険者は都道府県である。</p> <p>(5) 第1号被保険者は市町村の区域内に住居を有する40歳以上の者である。</p>		
<p>問6. 要介護(要支援)認定に関する以下の記述のうち正しいものはどれか。1つ選べ。</p> <p>(1) 要介護(要支援)認定は、本人のみ申請できる。</p> <p>(2) 要介護(要支援)認定では、コンピューターによる一次判定が行われる。</p> <p>(3) 認定調査の項目には精神機能は含まれない。</p> <p>(4) 認定結果に不服がある場合は、介護認定審査会に審査請求ができる。</p> <p>(5) 要介護度は、要介護1から要介護8までの8段階ある。</p>		
<p>問7. 高齢者の特徴で正しいものはどれか。2つ選べ。</p> <p>(1) 下顎高は低くなる。</p> <p>(2) 鼻唇溝は浅くなる。</p> <p>(3) 象牙質の感覚が鋭敏になる。</p> <p>(4) エナメル質の厚さが増加する。</p> <p>(5) セメント質の厚さが増加する。</p>		
<p>問8. 摂食・嚥下障害で咽頭期に起因する症状はどれか。2つ選べ。</p> <p>(1) むせる。</p> <p>(2) 咀嚼に時間がかかる。</p> <p>(3) 食事後に声に変化する。</p> <p>(4) 口から食物がこぼれる。</p> <p>(5) 食渣が口腔前庭に停滞する。</p>		
<p>問題9. ユニバーサルデザインの原則と、その代表商品の組合せで間違っているものはどれか。1つ選べ。</p> <p>(1) 誰でも公平に使用できること…シャンプーとリンスのボトル</p> <p>(2) 柔軟(フレキシブル)に使用できること…手動式開き戸</p> <p>(3) 使い方が容易に分かること…ピクトグラム(絵文字)</p> <p>(4) 間違えても重大な結果にならないこと…IHクッキングヒーター</p> <p>(5) 少ない労力で効率的に、楽に使えること…斜めドラム洗濯機</p>		
<p>問題10. 「ユニバーサルデザイン5ヶ条」で間違っているのはどれか。2つ選べ。</p> <p>(1) 第1条: ひとを観る、住宅を観る。</p> <p>(2) 第2条: 事後検証を必ず行う。</p> <p>(3) 第3条: 常に独創的発想を。</p> <p>(4) 第4条: 設計者・施工者及びデザイン技術者は、バリアフリーを熟知していなければならない。</p> <p>(5) 第5条: ひとにやさしいところを持つ。</p>		
<p>【高齢者支援学Ⅰ プレテスト、ポストテスト】</p>		

高齢者支援学Ⅱ プレポストテスト（プレテスト）

大学名：	学科名：	氏名：
------	------	-----

1. 要介護のお年寄り（認知症を含む）の住宅環境について、正しいものを1つ選びなさい。

- (1) トイレのドアは、大便器正面に設けた方が助しやすい。
- (2) 浴室の洗い場は、寒くならないように幅が狭い方がよい。
- (3) トイレの大便器は、腰掛便器より昔から慣れている和式便器の方がよい。
- (4) 浴槽への出入りが難しくなるため、シャワー浴が主になるので、寒くないように浴室と脱衣室に暖房機を設けること。
- (5) トイレ内が狭くなるので、壁面には手すりは設置しない方がよい。

2. 視覚や聴覚に障害を持ったお年寄りへの配慮で、間違っているものを1つ選びなさい。

- (1) 視覚に障害がある場合、キッチンの包丁置き場は、キャビネット扉内側の包丁挿しではなく、全長引き出し収納の方がよい。
- (2) 聴覚に障害があるお年寄りに選んだキッチンは、他の家族とコミュニケーションがとれる、対型キッチンである。
- (3) 建具は主に「引き戸」と「開き戸」だが、視覚に障害がある方が好むのは、「開き戸」である。
- (4) 聴覚に障害がある方は、家族の動きを知るために、家の中の壁に「室内窓」を設ける。
- (5) 視覚に障害がある方に、食卓上の料理の配置を教えるためには、「クロックポジション」を活用すると分かりやすい。

3. 施設の脚下を車いすで通行する際の必要寸法で、間違っているものを1つ選びなさい。

- (1) 通過に必要な最低幅は 800mm
- (2) 車いすの通行に必要な幅は 900mm
- (3) 車いすと横向きの人がすれ違える最低幅は 1,000mm
- (4) 車いすと車いすがすれ違える最低幅は 1,800mm
- (5) 車いすの回転に必要な最低幅（360度回転できる最低寸法）は 1,500mm

4. 以下のうち特別養護老人ホームに該当するものはどれか。1つ選べ。

- (1) 介護老人福祉施設
- (2) 介護老人保健施設
- (3) 介護医療院
- (4) 特定施設入居者生活介護
- (5) サービス付き高齢者向け住宅

5. 以下のうちケアハウスに該当するものはどれか。1つ選べ。

- (1) 養護老人ホーム
- (2) 特別養護老人ホーム
- (3) 軽費老人ホーム
- (4) 有料老人ホーム
- (5) 老人福祉センター

6. 以下のうち措置による利用はどれか。1つ選べ。

- (1) 軽費老人ホーム
- (2) 介護老人保健施設
- (3) 介護医療院
- (4) 有料老人ホーム
- (5) 養護老人ホーム

7. 高齢者における口腔の特徴について、正しいのはどれか1つ選びなさい。

- (1) 歯根露出は少ない。
- (2) 義歯の装着率は低い。
- (3) 歯周病の罹患率は低い。
- (4) 味覚閾値は低下している。
- (5) 唾液分泌量は低下している。

8. 食事場面の観察について、正しいのはどれか1つ選びなさい。

- (1) 食器は確認しない。
- (2) 食事姿勢は確認しない。
- (3) 食事中は話しかけない。
- (4) 在宅では確認を行わない。
- (5) 主治医との連携は必要ない。

9. 摂食嚥下障害患者に適さない食物形態について、正しいのはどれか1つ選びなさい。

- (1) 軟らかいもの
- (2) 粘りの強いもの
- (3) 性状が均質であるもの
- (4) 味がはっきりしているもの
- (5) 温度感がはっきりしているもの

10. 日本人の死因について、最も多いのはどれか1つ選びなさい。

- (1) 老衰
- (2) 肺炎
- (3) 心不全
- (4) 脳血管障害
- (5) 悪性新生物

【高齢者支援学Ⅱ プレテスト、ポストテスト】

⑥ 高齢者支援学Ⅰの実施

平成 29 年度からアクティブシニアが活動的な生活を送り続けるために必要な支援の方法について学修する高齢者支援学Ⅰを開講しています。それぞれの実施状況は以下の通りです。

(1) 第 1 回 高齢者支援学Ⅰ

1) 実施日時：平成 29 年 8 月 21 日(月)、22 日(火)

2) 実施場所：西日本工業大学小倉キャンパス

3) 参加者：62 名

西南女学院大学 栄養学科：11 名、福祉学科：6 名、看護学科：6 名、

西日本工業大学 建築学科：8 名、情報デザイン学科：6 名

九州歯科大学 口腔保健学科：25 名

4) 実施内容：

1 日目：集中講義

限目	時間	担当大学・学科	講師名	講義テーマ
	8：50～9：00	九州歯科大学・ 口腔保健学科	秋房 住郎	CCRC とは（講義趣旨説明） プレテスト
1	9：00～10：30	九州歯科大学・ 口腔保健学科	秋房 住郎	高齢者の口腔の特徴
2	10：40～12：10	西南女学院大学・ 福祉学科	■■■■■ ■■■■■	地域包括ケアシステムの構築 と高齢者の社会参加
休憩	12：10～13：00			
3	13：00～14：30	西南女学院大学・ 看護学科	■■■■■	高齢者の生活機能と認知力
4	14：40～16：10	西南女学院大学・ 栄養学科	■■■■■ ■■■■■	高齢者の栄養管理
5	16：20～17：50	西日本工業大学・ 研究センター	■■■■■	ユニバーサルデザイン ～高齢者にやさしい住まいづくり～

2日目：PBL

日程	内容
9：00～9：45	事前講義
9：45～10：00	オリエンテーション
10：00～10：45	コアタイム（課題シートから学習課題を探す）
10：45～12：00	自己学習（学習課題を図書館とインターネットで自己学習する）
昼休憩（12：00～13：00）	
13：00～14：00	自己学習並びに発表結果のまとめ （各課題を10分間で発表できるよう簡潔にまとめる）
14：00～16：00	発表会 ポストテスト

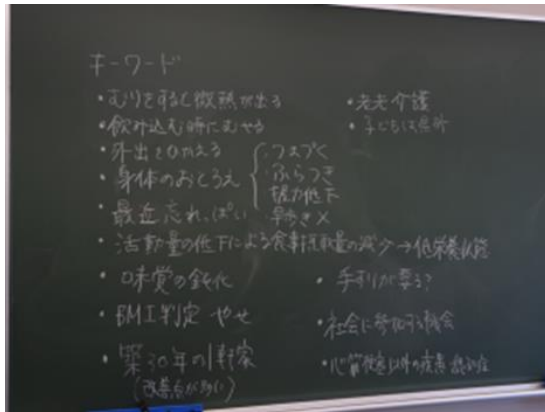
5) プレテスト、ポストテスト

プレテストは3.8点、ポストテストは6.2点であり、2.4点上昇していました。また、すべての大学、学科でこの傾向が認められました。これに加え、すべての科目でプレテストよりポストテストで正答率が上昇しました。

これらのことから、講義、PBLの教育的効果は十分あったと思われます。

それぞれの問題については、口腔保健の問題の難易度が高すぎたようです。これは、「2つ選べ」とする選択方法に不慣れな学生が多く、1つのみ回答していた学生が多かったためと思われます。

6) 講義、PBLの様子



7) その他

平成 29 年度高齢者支援学 I について、毎日新聞から取材を受け、平成 27 年 9 月 22 日 (金) 毎日新聞地方版に掲載されました。

毎 日

北九州市にキャンパスを置く九州歯科大、西南女学院大、西日本工業大の3大学が8月下旬の2日間、「高齢者支援学」と題した合同集中講義を開講した。高齢者の健康作りを支援する人材育成を目的に初めて企画した。専門分野の異なる3つの大学の合同講義は珍しく、学生から「普段学ぶことがない分野に触れ、刺激になった」との声が上がった。

ダイカケ走る
学生、教員地域と共に

九歯大 西南女学院大 西工大が合同集中講義

高齢者支援多角的に学ぶ

初日は九歯大の秋房住郎教授が、日々の食事と関係が深い口腔衛生について解説。西南の荒木剛進教授は、介護保険の仕組みや高齢者が受けられる介護サービスを説明した。西工大の電口隆三客員教授は、年齢や障害の有無を問わず全ての人がいずれ「ユニバーサルデザイン」について話した。

連携講義は、北九州市が進める高齢者が健康で活躍する街づくりを、お年寄りの支援を担う人材育成から支えるのが目的。3大学の学生が一堂に会することで、医療や介護で重視される異職種間の連携強化も狙った。九歯大が歯科衛生士の養成に携わる秋房教授を中心に、高齢者に関する学際関係の深い住生園連が、西工大に呼び掛け、1年かけて練り上げた。

2日目の課題解決型学習は、学生を3大学構成の8班(各8人)に分け、75歳男性の支援と一緒に料理できるように「食べる」と提案。食事中にむせないよう、食べ物の飲み下しの改善にも触れた。メンバーの一人、横田和可さん(九歯大2年)は「住環境は高齢者の生きがい作りに欠かせないと考え、最初に発表した。他校の先生の講義や学生との議論は刺激になった」と話した。

【奥田伸一】

●初日の講義を真剣に聴く学生たち
●各班で議論した75歳男性の支援策を発表する学生たち

(2) 第2回 高齢者支援学 I

- 1) 実施日時：平成 30 年 8 月 21 日(火)、22 日 (水)
 - 2) 実施場所：西日本工業大学小倉キャンパス (集中講義)、九州歯科大学 (PBL)
 - 3) 参加者：139 名
- 西南女学院大学 栄養学科：13 名、福祉学科：21 名、看護学科：56 名、
西日本工業大学 建築学科：10 名、情報デザイン学科：14 名
九州歯科大学 口腔保健学科：25 名

4) 実施内容：

1 日目：集中講義

限目	時間	担当大学・学科	講師名	講義テーマ
	8：50～9：00	九州歯科大学・ 口腔保健学科	引地 尚子	CCRC とは（講義趣旨説明） プレテスト
1	9：00～10：30	九州歯科大学・ 口腔保健学科	藤井 航	高齢者の口腔の特徴
2	10：40～12：10	西南女学院大学・ 福祉学科	■■■■■ ■■■■■	地域包括ケアシステムの構築と高齢者の 社会参加
休憩	12：10～13：00			
3	13：00～14：30	西南女学院大学・ 看護学科	■■■■■	高齢者の生活機能と認知力
4	14：40～16：10	西南女学院大学・ 栄養学科	■■■■■ ■■■■■	高齢者の栄養管理
5	16：20～17：50	西日本工業大学・ 研究センター	■■■■■	ユニバーサルデザイン ～高齢者にやさしい住まいづくり～

2 日目：PBL

（平成 29 年度を受講者アンケート結果により、PBL の自己学習、発表のまとめの時間が少ないとの意見が複数あったため、自己学習、発表のまとめの時間を変更）

日程	内容
9：00～9：15	オリエンテーション
9：15～10：00	コアタイム（課題シートから学習課題を探す）
10：00～12：00	自己学習（学習課題を図書館とインターネットで自己学習する）発表結果の まとめ
昼休憩（12：00～13：00）	
13：00～13：45	発表結果のまとめ （各課題を 10 分間で発表できるよう簡潔にまとめる）
13：45～16：15	発表会、ポストテスト

5) プレテスト、ポストテスト

プレテストは3.4点、ポストテストは5.2点であり、1.8点上昇していました。また、すべての大学、学科でこの傾向が認められました。これに加え、すべての科目でプレテストよりポストテストで正答率が上昇しました。

これらのことから、講義、PBLの教育的効果は十分あったと思われます。

6) 講義、PBLの様子



(3) 第3回 高齢者支援学 I

1) 実施日時：令和元年8月26日(月)、27日(火)

2) 実施場所：西日本工業大学小倉キャンパス(集中講義)、九州歯科大学(PBL)

3) 参加者：107名

西南女学院大学 栄養学科：25名、福祉学科：25名、看護学科：25名、

西日本工業大学 建築学科：5名、情報デザイン学科：2名

九州歯科大学 口腔保健学科：25名

4) 実施内容：

1日目：集中講義

限目	時間	担当大学・学科	講師名	講義テーマ
	8:50~9:00	九州歯科大学・ 口腔保健学科	引地 尚子	CCRC とは (講義趣旨説明) プレテスト
1	9:00~10:20	九州歯科大学・ 口腔保健学科	藤井 航	高齢者の口腔の特徴
2	10:30~11:50	西南女学院大学・ 福祉学科	■■■■■ ■■■■■	地域包括ケアシステムの構築と高齢者の 社会参加
休憩	11:50~12:50			
3	12:50~14:10	西南女学院大学・ 看護学科	■■■■■	高齢者の生活機能と認知力
4	14:20~15:40	西南女学院大学・ 栄養学科	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	高齢者の栄養管理
5	15:50~17:10	西日本工業大学・ 客員教授	■■■■■	ユニバーサルデザイン ~高齢者にやさしい住まいづくり~
	17:10~17:30	九州歯科大学・ 口腔保健学科	引地 尚子	【PBL】オリエンテーション、課題提 示

2 日目 : PBL

日程	内容
9 : 00~9 : 45	コアタイム (課題シートから学習課題を探す)
9 : 45~12 : 00	自己学習 (学習課題を図書館とインターネットで自己学習する)
昼休憩 (12 : 00~13 : 00)	
13 : 00~15 : 30	発表結果のまとめ (各課題を 10 分間で発表できるよう簡潔にまとめる)
15 : 40~17 : 00	発表会、ポストテスト

5) プレテスト、ポストテスト

プレテストは 3.6 点、ポストテストは 5.6 点であり、2.0 点上昇していました。また、すべての大学、学科でこの傾向が認められました。これに加え、すべての科目でプレテストよりポストテストで正答率が上昇しました。

これらのことから、講義、PBL の教育的効果は十分あったと思われます。

6) 講義、PBLの様子



⑦ 高齢者支援学Ⅰ 受講後アンケート調査

九州歯科大学口腔保健学科の高齢者支援学Ⅰを受講した学生を対象に、受講後アンケート調査を行いました。アンケート回収数は、平成29年度、30年度は25件（回収率100%）、令和元年度は23件（回収率92%）でした。

高齢者支援学Ⅰ 授業後アンケート

問1. 今回の連携講義で多職種連携のあり方についてどのように感じましたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

とても参考になった	参考になった	どちらともいえない	あまり参考にならなかった	参考にならなかった

問2. 他の職種について理解が深まりましたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

とても深まった	深まった	どちらともいえない	あまり深まらなかった	深まらなかった

問3. 今回の連携講義で最も役に立った講義はどれですか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

口腔保健	福祉	看護	栄養	住居

問4. 講義時間は適当でしたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

短い	やや短い	適当	やや長い	長い

問5. PBLのコアタイムの時間は適当でしたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

短い	やや短い	適当	やや長い	長い

問6. PBLの自習時間の時間は適当でしたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

短い	やや短い	適当	やや長い	長い

問7. 発表時間の時間は適当でしたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

短い	やや短い	適当	やや長い	長い

問8. シナリオから課題を抽出しやすかったですか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

簡単	まあ簡単	適当	やや難しい	難しい

問9. 班員とのコミュニケーションは十分に取れましたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

十分取れた	取れた	どちらともいえない	あまり取れなかった	取れなかった

問10. PBLに積極的に参加できましたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

とても積極的	積極的	どちらともいえない	消極的	とても消極的

問11. プレゼンテーションはうまくできましたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

とてもうまくできた	うまくできた	どちらともいえない	あまりうまくできなかった	うまくできなかった

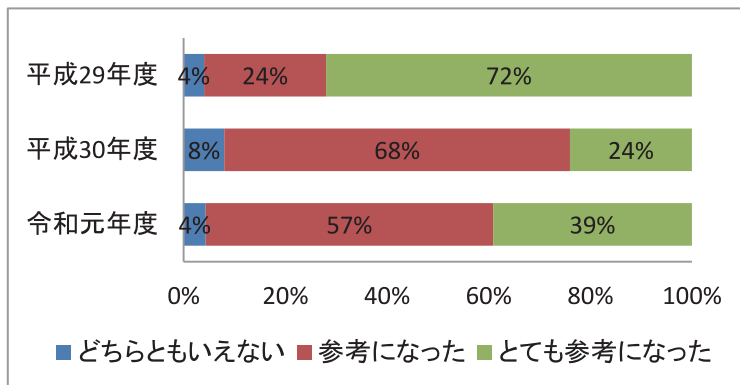
問12. 発表内容について満足できましたか。当てはまる項目の下に「1」を記してください。

とても満足できた	満足できた	どちらともいえない	あまり満足できなかった	満足できなかった

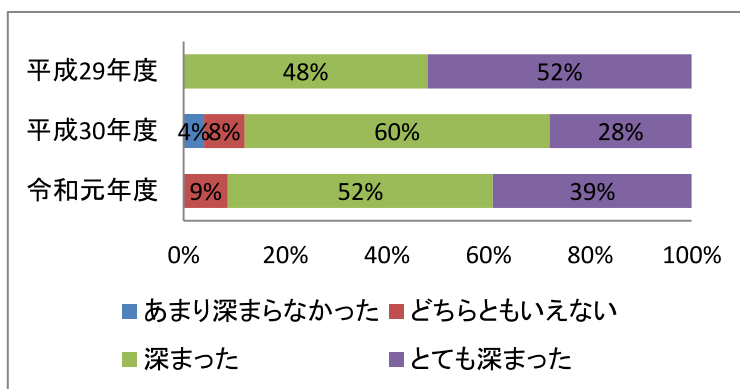
問13. 今回の連携講義について、意見があれば記載してください（自由記載）

アンケートの回答は以下の通りです。

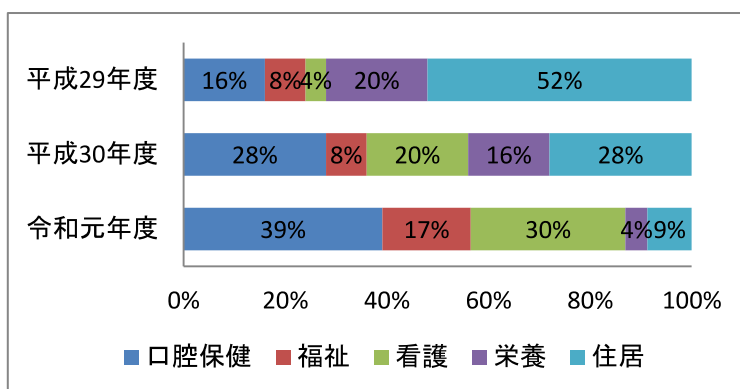
問1. 今回の連携講義で多職種連携のあり方についてどのように感じましたか。



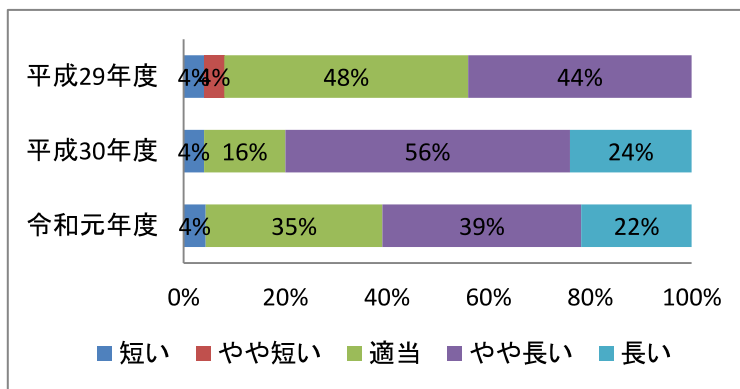
問 2. 他の職種について理解が深まりましたか。



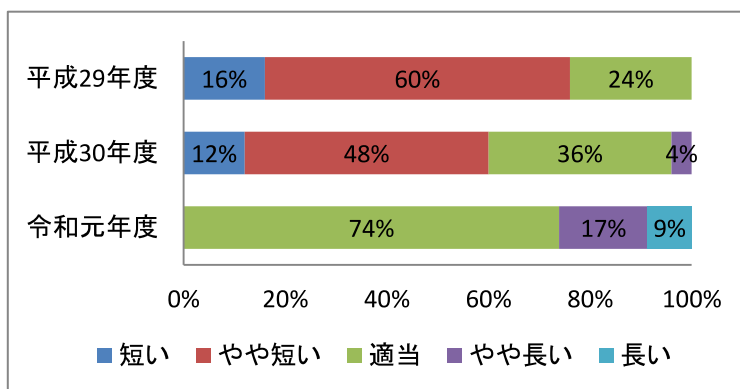
問 3. 今回の連携講義で最も役に立った講義はどれですか。



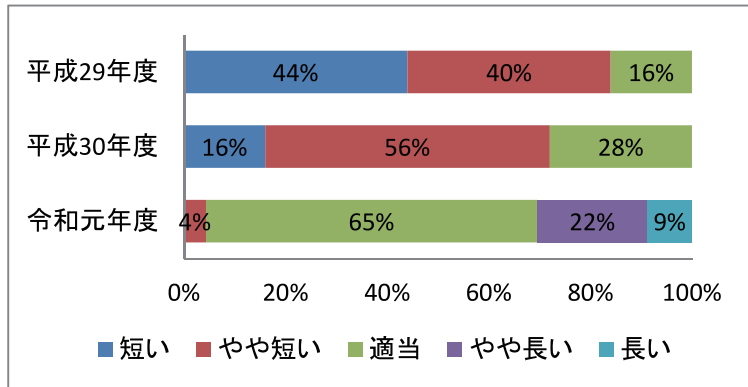
問 4. 講義時間は適当でしたか。



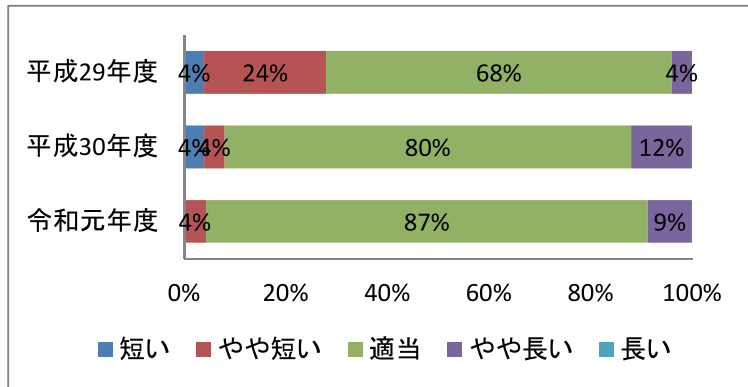
問 5. PBLのコアタイムの時間は適当でしたか。



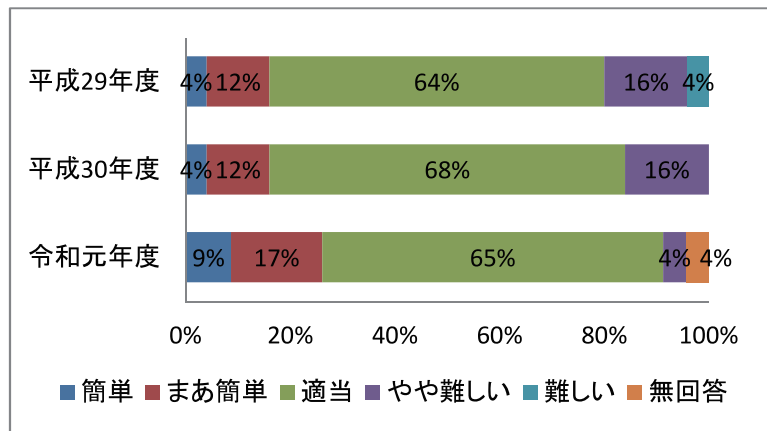
問 6. PBL の自習時間の時間は
 適切でしたか。



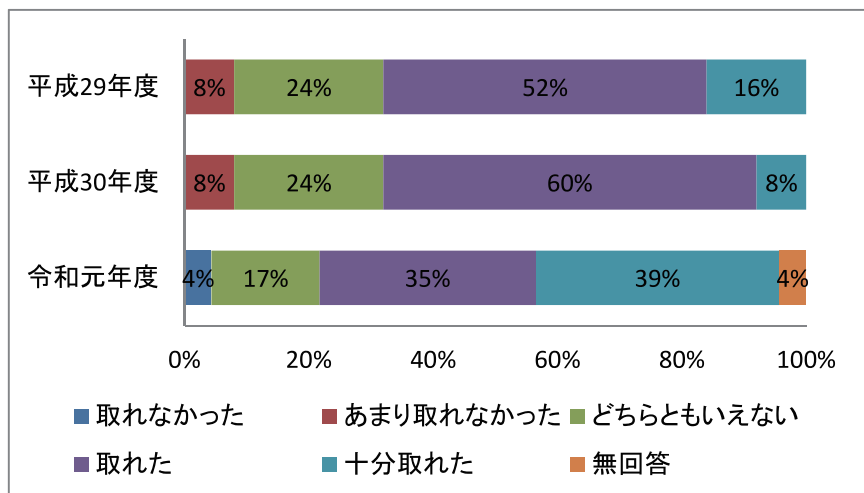
問 7. 発表時間の時間は適切で
 したか。



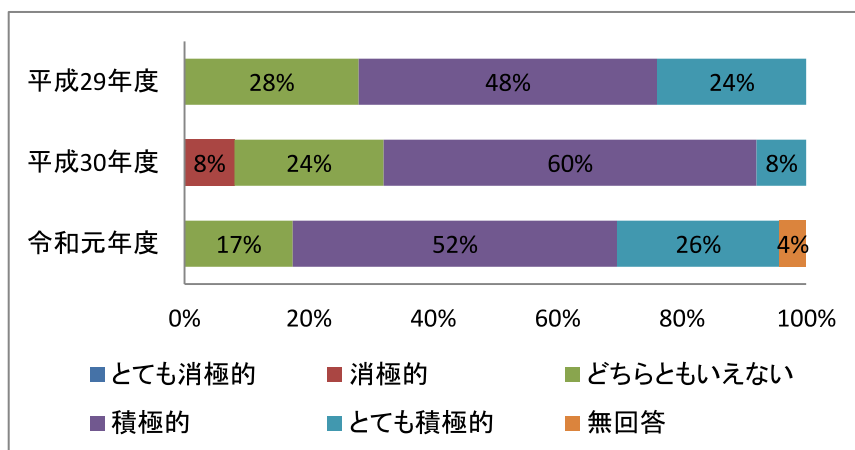
問 8. シナリオから課題を抽出
 しやすかったですか。



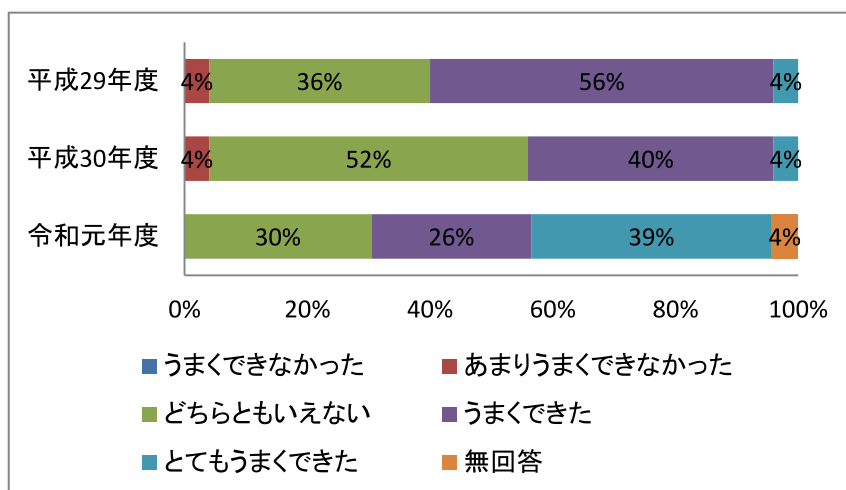
問 9. 班員とのコミュニ
 ケーションは十分に取れ
 ましたか。



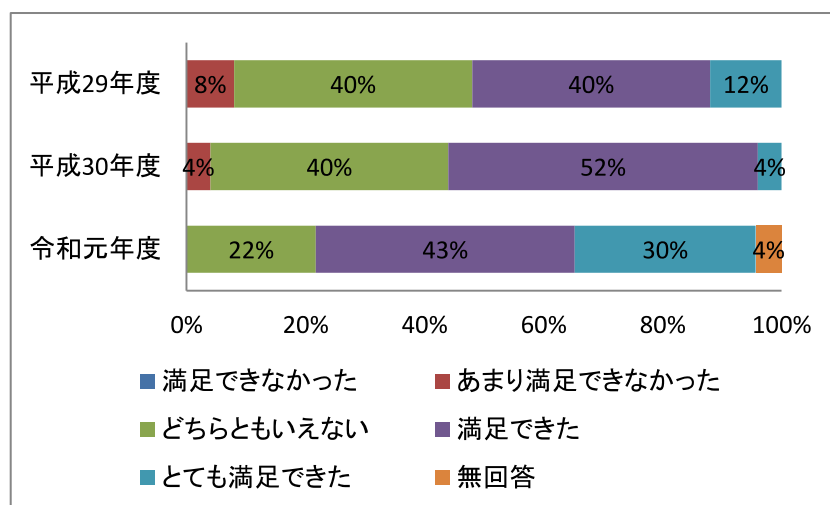
問 10. PBLに積極的に参加できましたか。



問 11. プレゼンテーションはうまくできましたか。



問 12. 発表内容について満足できましたか。



問 13. 今回の連携講義について、意見があれば記載してください。

【平成 29 年度】

・来年、いつ頃行われるのかわかりませんが部活の大会と重なりそうでした。8 月下旬は避けて頂けるとありがたいです。

・他の分野の知識に触れたことで、自分たちの分野だけでは思いつかないような解決策などを知れたのでとても勉強になった。

・今までは歯科大内のみでの話し合いなどしか機会がなかったが、他大学の他学部の方々と話す機会を与えられているような考えがあるんだなあとと思った。話し合っていくなかで、割と福祉や看護、栄養においては、意見を出すことができたけれど、住居の問題になると、何をどうしたらいいのかアイディア、考えが全く浮かばなくて、他大学と話し合うことで自分の考えの幅を広げられたのではないかと思う。

・PBL の時間が短く、プレゼンにまとめるのがギリギリだったとので、もう少し長く設けてほしい。

・初めて、他校と合同での講義を受け、普段聞くことが出来ないような内容の講義を聞くことができたのでよかった。今後、高齢者支援学を学ぶ上で口腔保健以外の視点から考える際に役立たいと思った。

・様々な視点からアクティブシニアについて考え、自分にはない発見がたくさんあり勉強になりました。

・発表のための準備の時間が少し短かったです。

・自習時間が思ったよりも短く練習ができなかったため、考えていたすべてを発表することができなかったことが残念だった。どの授業も聞きなれていることが多くわかりやすかった。普段関わることができない人と関わっていい機会だった。

・今回の連携講義によって、様々な自分の知らない知識を吸収することができましたが、班員中に看護の方がいなかったのので、自分で調べた知識や授業以外で、もっと看護について詳しく学ぶ機会があればさらによかったと思いました。

・今回、参加したことによって様々な視点から、高齢者のアクティブシニアについて考えることができた。普段学ぶことのない住居について初めて知ることも多くとても新鮮であった。しかし、自己学習や発表結果のまとめの時間が短かったため、満足な結果を得ることができずに終わってしまったことが後悔であった。

・これまでに住居について学んだことはなかったため、住居の講義で初めて気づいたことや学んだことがたくさんあり貴重な経験になった。高齢者を支援するためには多職種連携が重要である

ことが改めて分かった。また、PBLを通してそれぞれの分野の内容や大学で実際にどのようなことを学んでいるのか理解できたことが良かった。

・他の分野について勉強している人たちと話し合うことが出来てとてもタメになりました。しかし、発表までの時間が短すぎて十分に話し合うことが出来ませんでした。もう少し話し合う時間が多くとれるとよりよい学習になったのではないかと考えました。

・発表のための準備の時間がもう少し欲しかったです。

・この2日間、いつもは聞けないような講義が聞けて、新鮮味があり、とても有意義な時間を過ごせました。連携講義をすることで、自分の知らない分野の知識が増えて、その後のPBLの時間もスムーズに入ることができました。PBLの時間は、様々な意見が出て、班員の知ってる分野の意見を付け加えし、より良いものを作っていくことに達成感を感じました。

・他職種連携の良さをとても感じる事が出来たので、他職種との連携にもっと興味がわきました。

・私は、チーム医療について興味があったので、今回のこの時間、多くの職種からの意見を聞いて一つの課題に取り組んでいくということが、素晴らしいことであると気づき、とてもいい経験になったなと思いました。このような時間をもうけていただけてありがとうございました。

・自習時間が短くて、満足のいく発表ができなかった。また、自習することに必死で、あまりコミュニケーションが取られなかった。しかし、個人で調べたことを発表した際、私が考えたものとは違う視点からのアプローチがあり、新鮮であった。新たな視点から考えられ、楽しかった。

・他大学と交流することで、それぞれ全く違う視点からAさんの問題を解決しようとするのが面白かった。私たちは口腔保健からの視点でみるのに対して、福祉は社会的役割、栄養は食事面や栄養バランス面、看護は心筋梗塞や認知症、住居は家の全体的な構成という視点でみていて、専門分野によって、優先順位や目にとまる問題が変わるのが面白かった。ただ、自己学習や、パワーポイントにまとめるのが間に合わなかった。もう少し深くお互いの考えを知った上で、順序だてて、パワーポイントにまとめたかった。

・シナリオが班に一枚しかなく、少しやりづらい点があった。そこ以外はしっかり学習できてよかった。

・他大学の先生の授業を受けたり、他大学の学生とのチュートリアルを通して他職種連携とは違う専門分野の職種が同じ課題に向かって違う観点からアイデアをだし課題解決を目指すことなのだとして2日間の講義をおえて、実際に感じる事が出来ました。1年の前期に食と健康管理という授業でチュートリアルをしましたが、その経験を踏まえてこの授業に取り組めたことでスムーズに進めることができました。1年の時とは違い、様々な職種からのアプローチできる課題(キーワード)がありました。1職種だけでなく、他職種がみることで1つの課題への支援方法が広

がっていく。これが他職種連携の利点だと痛感しました。将来はこれが授業でなく、現場での問題となるので、短い時間で、問題と解決方法(支援方法)を見つけだせるように、専門職としての知識を身につけていかないといけないと思いました。私も将来専門職者として、様々な問題(アクティブシニアの問題など)加担できるよう、大学の勉学をはじめ社会の問題やニュースにも目を向ける必要性を感じました。振り返って、とても考えさせられる濃い2日間になりました。この経験を「良かったな」で終わらせずに今後に活かしていきたいです。私は歯科衛生士として自信をもって他職種との話し合いに参加できたり、対象者の質問や興味に対しての期待に答えられたり、モチベーションを高めたりできる人になりたいし、そのような働き方をしたいと思いました。

・グループで話し合う時間が、とても短く感じました。発表の練習をする時間が十分でなかったので、プレゼンテーションの内容があまり満足のいくものでなかったと感じました。

【平成 30 年度】

・とても内容が濃い2日間でした。2日目の発表までの時間がとても短く、苦労したので1時間ぐらいプレゼン作成の時間を余分にとっても良いと思いました。

・他の職種からの目線で様々な意見を知れる良い機会だと思いました。
・長期休みに講義枠をとると、全体のモチベーション低下のためにパフォーマンスが満足いかない結果となった。

・他大学の学生と有意義な時間と考えを共有できてとても良い機会になりました。
・他の職種について知り、学ぶことができ、とても勉強になりました。
・今まで看護、福祉、栄養の分野については講義の中で少しずつ扱ってきたけど、シナリオを住居の観点から考察していくのは新鮮でおもしろかった。様々な分野の人が集まって情報を共有するには自分の分野のことを細かく理解して広い視野を持つことが必要だと思った。
・日付が中途半端すぎる。このために帰省から帰ってこないといけなくなったため、次回は学校が終わって夏休みに入ってすぐか、終わりごろにすべきだと思う。

・今回のシナリオでは歯科領域の記載が少なかったため、アプローチしにくかったです。

【令和元年度】

・PBL がとても勉強になりました。
・友達も増えて色々な話も聞いてよかったです。しかし、夏休みにあるのが少しいやです。
・いろんな友達ができ、知識も増えた。

⑧ 高齢者支援学Ⅱの実施

令和元年度から4年次生を対象とした要介護者に必要な支援について学修する高齢者支援学Ⅱを開講しています。

なお、高齢者支援学Ⅱの受講については、高齢者支援学Ⅰをすでに履修していることを必須条件としています。

(1) 第1回 高齢者支援学Ⅱ

1) 実施日時：令和元年8月28日(水)、29日(木)、30日(金)

2) 実施場所：九州歯科大学（講義、グループワーク）、
社会福祉法人八健会 若松ケアハウス（施設実習）

3) 参加者：12名

西南女学院大学 栄養学科：3名、福祉学科：1名

西日本工業大学 建築学科：2名、情報デザイン学科：2名

九州歯科大学 口腔保健学科：4名

4) 実施内容：

1日目：講義日程

限目	時間	担当大学・学科	講師名	講義テーマ
	8：50～9：00	九州歯科大学・ 口腔保健学科	藤井 航	CCRC とは（講義趣旨説明） プレテスト
1	9：00～10：30	九州歯科大学・ 口腔保健学科	藤井 航	高齢者の口腔の特徴
2	10：40～12：10	西南女学院大学・ 福祉学科	■■■■■ ■■■■■	高齢者施設の種類と特徴及び利用者とのコミュニケーションについて
休憩	12：10～13：00			
3	13：00～14：30	西日本工業大学・ 客員教授	■■■■■	ユニバーサルデザイン ～障害配慮の住まいづくり～

2日目：施設実習

日程	内容
10：30～10：40	注意事項説明
10：40～13：00	施設実習

3日目：グループワーク

日程	内容
8：50～9：00	オリエンテーション（グループワーク趣旨説明）
9：00～12：30	自己学習（学習課題を図書館とインターネットで自己学習する） 発表結果のまとめ （各課題を10分間で発表できるよう簡潔にまとめる）
昼休憩（12：30～13：30）	
13：30～14：30	発表会
14：30～14：40	ポストテスト

5) プレテスト、ポストテスト

プレテストは6.2点、ポストテストは8.3点であり、1.8点上昇していました。また、すべての大学、学科でこの傾向が認められました。これに加え、すべての科目でプレテストよりポストテストで正答率が上昇しました。

これらのことから、講義、施設実習、グループワークの教育的効果は十分あったと思われます。

6) 講義、施設実習、グループワークの様子



3. 3 大学連携公開講座の実施

平成 27 年度から毎年度、九州歯科大学、西南女学院大学、西日本工業大学が主催した市民公開講座を開催しました。実施概要については、以下の通りです。

(1) 目的

福岡県版 CCRC を広く県民に周知することを目的に、それぞれの大学の専門性を活かした市民公開講座を開催するもの。

(2) 開催状況

【平成 27 年度】

1) 第 1 回

- ・日時：平成 27 年 2 月 27 日（土）
- ・場所：西日本工業大学 小倉キャンパス 303 号室
- ・演者：高橋 由希子 先生（九州歯科大学口腔保健学科 助教）
- ・演題：「高齢者の口腔ケアについて」
- ・当日の様子



2) 第2回

- ・日時：平成27年3月5日（土）
- ・場所：西日本工業大学 小倉キャンパス 303号室
- ・演者：■■■■先生（西南女学院大学 教授）
- ・演題：「からだを使って健康長寿」
- ・当日の様子



3) 第3回

- ・日時：平成27年3月12日（土）
- ・場所：西日本工業大学 小倉キャンパス 303号室
- ・演者：■■■■先生（西日本工業大学デザイン学部建築学科 教授）
- ・演題：「ユニバーサルデザイン～ひとにやさしい住まいづくり～」
- ・講演要旨：シャンプーボトルやハサミ、湯飲みなどの身近なものを例に、ユニバーサルデザインの7原則について紹介した。後半は、家庭内事故に“転倒”が多いことから住宅への手すりの取り付けについての講演があった。講演終了後は、受講者にスライドで紹介したユニバーサルデザインの商品を手にとって体験していただいた。
- ・当日の様子



【平成 28 年度】

4) 第 4 回

- ・ 日時：平成 29 年 3 月 4 日（土）10：00～11：45
- ・ 場所：西日本工業大学 小倉キャンパス 303 号室
- ・ 講師・演題： ████████ 氏（北九州市企画調整局地方創生推進室 定住・移住促進担当課長）
「北九州市版生涯活躍のまち（CCRC）の取り組み」
大渡 凡人氏（九州歯科大学 DEMCOP 教授）
「アクティブシニアとして生きるために必要な口腔機能管理」

・ 当日の様子

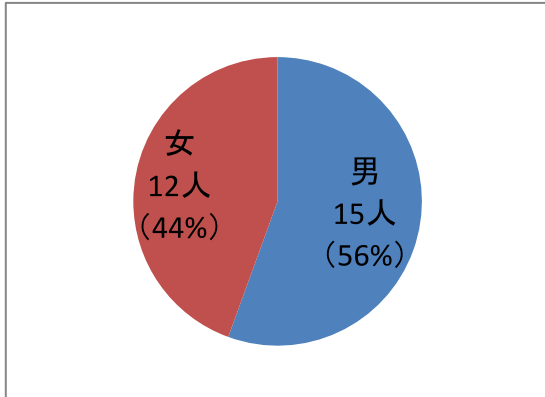


・参加者アンケートの実施

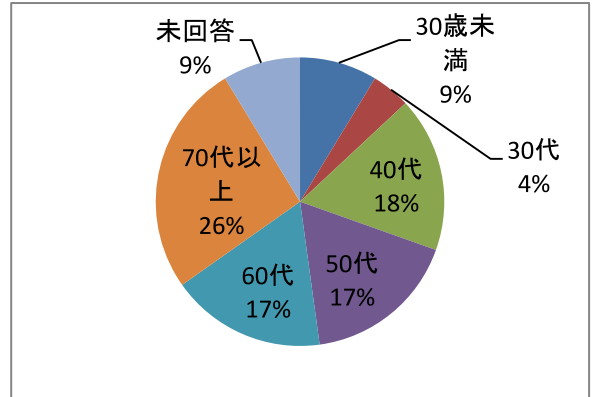
市民公開講座へ参加した市民に対し、本市民公開講座並びにアクティブシニアに関するアンケート調査を行いました。結果は以下の通りです。

【参加者の属性】

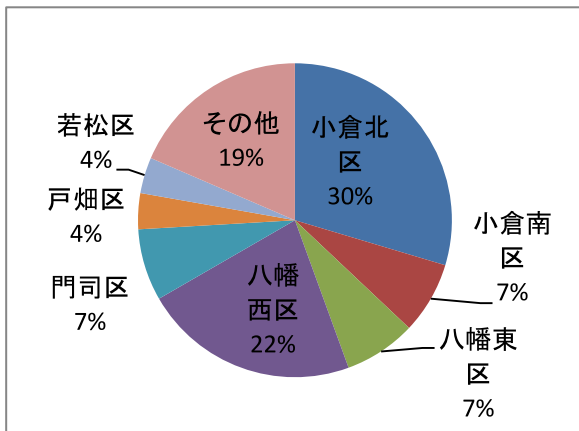
① 性別



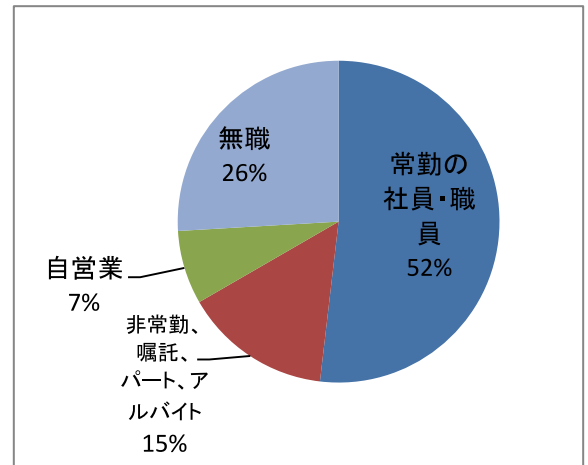
② 年齢



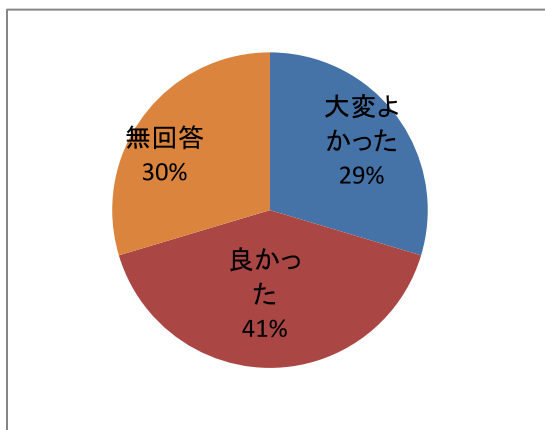
③ 居住地



④ 現在の就業状況



【市民公開講座の感想】



【アクティブシニアについて】

(1) アクティブシニアが健康でいられるためには何が重要だと思われますか。1位から5位まで順位を記入してください。

①都市整備・住環境 ②医療支援 ③介護支援 ④就業支援 ⑤アクティブシニアを支える人材育成

1位	2位	3位	4位	5位
都市整備・住環境	人材育成	就業支援	医療支援	介護支援

(2) アクティブシニアが健康で働き続けるために、大学はどのような学生を育てていくべきだとお考えですか。(自由記載)

- ・お年寄りの方々との交流（一緒に遊んだりすること、老人ホームや介護施設）
- ・コミュニケーションのとれる次世代を理解できる人になってもらいたい
- ・大学卒業後地域就労のできる環境づくりが必要
- ・実習、実技に力を入れてほしいと思います
- ・シニアを活用した教育の展開
- ・学部により異なると思うが、健康、生きがいの観点からは企業—大学との交流の場（シニアとのコミュニケーション）をもっと多く持ってもよいのではないかと思う
- ・学生自身がまず自分の健康管理をしっかりし、健康意識を高めること
- ・自己中心ではなく、相手の意見を受け入れる人を育ててもらいたい
- ・自分の出世を目標とするのではなく、「世のため、人のため、役にたつ人間になろう」と考える学生を育ててほしい。学生時代から地域活動に参加させたい。
- ・専門分野に精通するとともに、生活の場である本地域のこと（文化、歴史、産業など）について幅広く理解をする学生
- ・地域活動、貢献に積極的にかかわる人材の育成
- ・高齢者についての理解、対応、コミュニケーションスキル
- ・実際的でリスクマネジメントの可能な治療を行える学生
- ・学生と高齢者の交流
- ・健康づくりのためのイベント、地元を知るためのウォーキング、テーマを決めて自然歴史、グルメ、角打バー、屋台

- ・社会参加のサポーター（NPO法人）
- ・多世代交流の意識とスキルのある学生
- ・時代の要求に対応できる優秀な人材
- ・市民向けの講座など啓蒙活動
- ・「シニア」は人ごとではなく、自分の一生の延長線上にあることを意識して、自分自身、家族、社会への貢献を考えられるような学生さんを育ててください

【平成 29 年度】

5) 第 5 回

- ・日時：平成 29 年 9 月 7 日（木）13：30～16：00
- ・場所：西南女学院大学 6 号館
- ・講師：■■■■先生（関西大学 環境都市工学部 建築学科 教授,建築家）
■■■■先生（関西大学 佐治スタジオ研究員,地域デザイナー）
- ・演題：協働する学生のチカラ in 佐治・男山・南花台・そして越前大野…
- ・講演要旨：

集住環境におけるこれからのまちづくりの再編には、①まちに住む、②自分の家は自分で作る、③小さいこと・混ぜること、の3つがキーワードとなる。これらを踏まえて、2007年以降、関西大学・学生と地元・地域が協働（力だけでなく、こころも合わせる意味で「協」）で、まちづくりに取り組んできた。具体的には、兵庫県丹波市佐治、京都府八幡市男山、大阪府河内長野市南花台団地、福井県大野市などがある。これらの取組みは、ニュートラルな立場にある学生ならではの力（チカラ）、すなわち人びとの間を取り持って、繋いで、協働して、というチカラが十分に発揮されたものであった。

- ・当日の様子



6) 第6回

- ・日時：平成 29 年 10 月 21 日（日）
- ・場所：西南女学院大学 6 号館
- ・講師：██████████先生（漫画家,イラストレーター）
- ・演題：あの頃 ボクは 北九州男児
- ・講演要旨：

今年、『ハートカクテル』という最初に世に出たコミックが生誕して 35 周年にあたる。これまで数多くのコミックやイラストを描いてきたが、18 年間暮らした北九州の海、玄界灘、まち、ひと、これが作品の原点にある。高校卒業後に北九州を離れてからは、しばらく音信不通だったが、2002 年に門司港に市と共同でギャラリーを建て、その後も北九州空港、門司港駅のプロジェクトを行っている。自分を育ててくれた北九州に恩返しができることを嬉しく思っている。

- ・当日の様子



7) 第7回

- ・日時：平成30年3月10日（土）14：00～15：30
- ・場所：西南女学院大学6号館
- ・講師：██████先生（筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教授）
- ・演題：新しい発想で生活習慣病としての認知症を予防しよう
- ・講演要旨：

人生100年時代となった今、認知症予防のためにも健康寿命をいかに伸ばすかが、重要な関心事となっている。これには、適度な運動と栄養バランスを十分に考えた食事はもちろんのこと、人びとが社会や地域と関わり続け、社会的役割を果たしていくことが重要になる。また、近年は「Smart Wellness City」という考え方も、健康寿命を伸ばすため取組みとして注目されている。これは、健康づくりの観点から街づくりを行うもので、自家用車以外の移動手段（公共交通機関など）を整備し、人々がその街に暮らすだけで自然と健康になることを目指すものである。



【平成 30 年度】

8) 第 8 回

- ・ 日時：平成 30 年 6 月 30 日（土） 9：00～13：00
 - ・ 場所：西南女学院大学 8 号館 1 階
 - ・ 参加者数：124 名
 - ・ 講師：[REDACTED] 先生（西南女学院大学保健福祉学部栄養学科）
 - ・ 演題：「知って欲しい日本人に多い脳卒中 ～～寝たきりにならないために～～」
 - ・ ブース出展：飲食物の糖分濃度と pH の展示
- ・ 当日の様子



9) 第9回

- ・日時：平成30年8月25日（土）9：00～13：00
- ・場所：西南女学院大学8号館 1階
- ・参加者数：119名
- ・演者：■■■■先生（西南女学院大学保健福祉学部栄養学科）
- ・演題：「今時、まさかの低栄養!? ～食生活を見直して老化予防を!～」
- ・ブース出展：嚥下機能検査（反復唾液嚥下テスト、改訂水飲みテスト、フードテスト）
- ・当日の様子



10) 第 10 回

・日時：平成 30 年 10 月 20 日（土）9：00～12：00

・場所：西南女学院大学 8 号館 1 階

・参加者数：139 名

・演者： ████████ 先生（北九州小倉・糠床糠炊き研究会 顧問）

・演題：北九州の郷土料理“糠床・糠炊きの魅力発見！”

・ブース出展：咀嚼力検査・舌圧測定、ポスターの掲示（噛む重要性和生活習慣病，喫煙と口の健康）

・当日の様子



11) 第 11 回

- ・日時：平成 31 年 2 月 24 日（日） 14 時 00 分～15 時 30 分
- ・場所：西日本工業大学 小倉キャンパス 3 階 303 講義室
- ・参加者数：58 名
- ・演者：[REDACTED] 氏（建築家、五井建築研究所 代表取締役社長）
- ・演題：「ごちゃ混ぜの街」が生み出す多世代共生コミュニティ
- ・講演要旨

「Share金沢」をはじめ、多くの先駆的高齢者地方移住コミュニティの空間設計をてがけられてきた建築家・西川 英治氏（五井建築研究所 代表取締役社長）を講師に迎え、Share金沢やB's・行善寺などの福祉施設や、輪島KABULETなどの地方創生プロジェクトを例に、五井建築研究所が取り組んでいる、老若男女、高齢者も若者も障がい者もあらゆる人たちが協力して生きている社会「ごちゃ混ぜの街」を創る取り組み事例や仕組み創りについて講演。

- ・当日の様子



【令和元年度】

12) 第 12 回

- ・日時：令和元年 6 月 22 日（土）9：00～13：00
- ・場所：西南女学院大学 8 号館 1 階
- ・参加者数：185 名
- ・演者：[REDACTED] 先生（公益社団法人福岡県栄養士会会長、一般社団法人 FOOD & HEALTH 協会 ククテル代表理事）
- ・演題：「人生 100 年時代！美味しく楽しく令和を生きる～万能調味料「塩麴」の作り方と目からうろこの活用法～」
- ・ブース出展：唾液検査 デントバフ（量、pH、緩衝能）、潜血検査（ペリオスクリーン）、ポスター掲示（「歯周病は万病のもと！？」）
- ・当日の様子



13) 第13回

・日時：令和元年10月19日（土）8：30～12：30

・場所：西南女学院大学8号館 1階

・参加者数：82名

・演者：西南女学院大学栄養学科 教授 高崎 智子 先生

九州歯科大学口腔保健学科 准教授 邵 仁浩 先生

西南女学院大学栄養学科 教授 近江 雅代 先生

・演題：健康で豊かに生きるために、健康長寿を目指して

～専門家による健診と自宅のできる健康管理～

・ブース出展：潜血検査（ペリオスクリーン）、湿潤度検査（ムーカス）、ポスター掲示（「全身の健康のための歯周病予防～全身の健康を左右する歯周疾患」）

・当日の様子



14) 第 14 回

- ・ 日時：令和元年 12 月 14 日（土） 8：30～13：00
- ・ 場所：西南女学院大学 8 号館 1 階
- ・ 参加者数：103 名
- ・ 演者：九州歯科大学口腔保健学科 教授 園木 一男 先生
- ・ 演題：“糖尿病と歯周病”の関係を学んで“歯・口と全身の健康”を保とう！

「糖尿病と歯周病の関係について」

- ・ ブース出展：酸産生能検査（ペリオチェック pH）、ブラッシング指導（歯間ブラシとデンタルフロスの使い方）、ポスター掲示（「喫煙によるリスクと歯周病予防」）

- ・ 当日の様子



4. 高齢者が安全・安心に暮らせる環境づくり

ユニバーサルデザイン (Universal Design:UD) とは、文化・言語・国籍や年齢・性別などの違い、障害の有無や能力差などを問わずに利用できることを目指した建築 (設備)・製品・情報などの設計 (デザイン) のことです。

その中でも、医療施設は、外来・入院、検査・診療など多様な機能が包含され、複雑に係している建物と言えます。また、その利用者は、様々な疾病・疾患に罹っている患者や高齢者が多く、そうした利用者にとって「安全・安心」「誰にでもわかりやすい」「どんなところでも使いやすい」というユニバーサルデザインの考え方で作られた空間、環境は特に重要であると考えます。

福岡県では平成 10 年 4 月 1 日から「福岡県福祉のまちづくり条例」を施行しており、その条例で事業者等は県及び市町村と共に施策に基づく福祉のまちづくりに取り組むよう努めるものとされています。

そこで、高齢者 QOL ビジネス創出プロジェクト (CCRC 事業) の一環として、これまで 3 大学で行ってきた高齢者支援学 I、II で修得した知識をいかしつつ、3 大学のそれぞれの専門領域の知識を活かした医療機関におけるユニバーサルデザインを検討するため、九州歯科大学附属病院を題材として、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた環境づくりに向けた取組を行っているところです。

具体的な取り組みは以下の通りです。

【現状】

九州歯科大学附属病院には年間約 17,000 人の患者が来院しており、そのうちの半数程度が 60 歳以上の高齢者であり、70 歳代の患者が全年齢で一番多くを占めている。

それにも関わらず、附属病院は 1999 年に建てられたが、ユニバーサルデザインを意識した空間、環境ではなく、実際に高齢者がエスカレーターで転倒するなどの事故も起きており、患者が安全・安心に受診できる環境とは言い難い。

【計画】

(1) 実態調査

附属病院に3カ所ある出入口利用状況、エレベータ・エスカレータの利用状況調査を実施した。(調査期間：10/7～10/9)



1) 出入口利用状況調査

1階正面玄関（入る、出る）、駐車場出入り口（入る、出る）、2階玄関（入る、出る）の3地点で調査（実線の○印）

→正面入口、駐車場側入口の利用者数は同程度。2階入口の利用はほとんどなし。

2) エレベータ・エスカレータ利用状況調査

1階エスカレータ（上る、下る）、エレベータ（1階から乗る、降りる）の2地点で調査（点線の○印）

→エレベータの利用率は上り、下りともにエスカレータの1割程度。

⇒エレベータの利用率向上を目標とする

(2) 実施計画

来院者にとって「安全・安心」「誰にでもわかりやすい」「どんなところでも使いやすい」を目標として、今後、以下の取組を行う予定。

① エレベータの待機プログラムの変更

エレベータを可能な限り1階に停止させることで、1階から各フロアにある診療科への利便性を高める。

② 再来受付機の移動によるエレベータ利用への誘導

1階にある再来受付機をエレベータ付近へ移動することにより、エレベータの認知度、利便性を向上する。

③ サインを利用したエレベータ利用への誘導

④ 患者への健康関連情報の提供

正面入口にQOL向上に資する口腔、栄養等の正しい健康関連情報を来院者へ提供する。

⑤ 効果検証

以上の取組を行った後、効果検証を行い、今後の取組にいかす。

おわりに

平成 27 年度から 5 年間にわたって高齢者の QOL 向上を志向した新たな産業創出、実践的教育を行うことを目的として、専門の異なる九州歯科大学、西南女学院大学、西日本工業大学の 3 大学で連携して「高齢者 QOL ビジネス創出プロジェクト(CCRC 構築モデル事業)」を行ってきました。

本事業で行った取組を通じて、高齢者の QOL を志向する人材の育成、学生によるユニバーサルデザインの考え方を取り入れた環境づくりを行うことができました。

今後も行政、医療機関、介護施設等とも連携しつつ 3 大学が得意とする専門分野の知識をいかし、地域住民が生きいきと暮らせる社会の実現に向け、各大学が協働して、さらなる発展を目指します。

